

日本語教育

大野 早苗

2012年4月、NHKがウェブ上でやさしい日本語(外国人にもわかりやすい日本語)によるニュース、News Web Easyの試験公開を始めた。外国人にやさしい日本語をという発想は、野元菊雄の簡約日本語にさかのぼる。簡約日本語そのものは実用に至らなかったが、阪神・淡路大震災を契機として、外国人に対してやさしい日本語で災害情報などの提供を行うための研究、開発が進み、また、一方で、日本在住の外国人の増加に伴い、地域社会での生活に主眼を置いたやさしい日本語への取り組みがなされてきた。News Web Easyの公開は、やさしい日本語が日本語の1つの表現として確立してきたことの現れであると言えるだろう。

従来の主に留学生を対象とした日本語教育では、集中的に、ある程度時間をかけて日本語を学習するという前提があった。しかし、地域社会における日本語教育では、学習者は必ずしも十分な時間を日本語学習に割くことはできず、また、途中で学習を止めざるをえないことも多い。そこで必要とされるのは、学習の途中段階でも学んだ日本語を用いて意思疎通ができることを念頭におきつつ、文法や語彙を制限したやさしい日本語となる。

現実の使用実態に鑑みたやさしい日本語のための初級文法シラバスは、庵(2009)で提案され、それに基づくテキスト『日本語これだけ1・2』(ココ出版)が出版されている。実際の使用に則した文法を整備するというのは、すなわち、日

本語教育文法を確立するというのであるが、そのための研究として、2012年には、使役表現に焦点を当てて使用実態と初級教科書の分析を行った岩田(2012)、使役と受身の導入順序について論じた庵(2012)などが発表されている。

また、様々な文書のやさしい日本語への書き換えについての研究も進められている。川村・北村(2012)は、自動書き換えシステムの開発を目指したものの、宇佐美(2012)は、書き換え作業者の意識を調査し、作業時の思考プロセスを考察したものである。

この他、情報処理や放送研究の分野でも、やさしい日本語のための研究として、文章の難易度測定の方法、やさしい日本語の理解度の測定などがなされている。News Web Easyは、2013年4月から本格公開される予定であり、やさしい日本語のための研究の重要性は、ますます高まっていくものと思われる。

文献(引用順)

庵功雄(2009)「地域日本語教育と日本語教育文法—「やさしい日本語」という観点から—」『人文・自然研究』3号/岩田一成(2012)「初級教材における使役の「偏り」と使用実態」『日本語/日本語教育研究3』ココ出版/庵功雄(2012)「文法シラバス改訂のための一試案—ボイスの場合—」『日本語/日本語教育研究3』ココ出版/川村よし子・北村達也(2012)「やさしい日本語への書き換えリストの作成とその評価」『日本語教育学会秋季大会予稿集』/宇佐美洋(2012)「難解文書の書き換えプロセスに見られる「評価」への意識」『日本語教育学会秋季大会予稿集』(順天堂大学)